

な関連を認めた。本人、家族、地域等のさまざまな要因が入院時の病院の選択に関与しているものと考えられ、患者側と病院側の要因を明確に区分することはできない。しかし、結果として病院の規模や設立主体により退院率が有意に異なることは各病院関係者が共通し認識しておくべきことと思われる。

【まとめ】新潟県精神科病院入院患者調査結果で、年齢、病院規模、公的病院、60歳以上の認知症が退院と有意な関連を認めた。

【文献】藤田利治, 竹島 正: 精神障害者の退院曲線と長期在院のリスク要因についての患者調査に基づく検討. 精神神経学雑誌 108: 9, 891-905, 2006.

## 7 新潟県における高次脳機能障害支援普及事業について

河村 里絵・宮下 裕子・山岸 里映\*  
保科志貴子\*・阿部 俊幸  
新潟県精神保健福祉センター  
新潟県福祉保健部障害福祉課\*

【はじめに】脳損傷の患者の中で、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を主たる要因として生活上の困難を有しながら、診断をはじめ支援の手法が確立していない一群が明らかになってきた。この一群に対する支援対策を進めるため、平成18年度から障害者自立支援法の都道府県事業として高次脳機能障害支援普及事業が始まった。新潟県では平成19年度から事業化しており、現況と課題を報告する。

【高次脳機能障害者を取り巻く現状】実態把握が困難、普及啓発の遅れ、高次脳機能障害に対応するサービスの不足、提供体制の未整備が挙げられる。

### 【高次脳機能障害支援普及事業】

- ・都道府県ごとに支援拠点機関を設置。  
(平成24年度までに全国で設置。新潟県は未設置.)
- ・事業内容：個別支援、普及啓発、教育研修、支

### 援体制の構築

#### 【新潟県における高次脳機能障害支援の現況】

- ・高次脳機能障害者の発生率：年間273人/年(推計)(64歳以下人口の0.014%)
- ・高次脳機能障害診断基準の認知度：精神科病院56% > その他の精神科50%
- ・社会的行動障害への対応：脳血管疾患リハ医療機関31% > 精神科病院21% > その他の精神科19%
- ・精神症状の治療：精神科病院84% > その他の精神科58% > 脳血管疾患リハ医療機関56%
- ・相談支援の実施：脳血管疾患リハ医療機関47% = 精神科病院47% > その他の精神科16%

【今後の課題とまとめ】支援体制を整えていくための拠点の設置と支援ネットワークの構築、支援者への研修、県民への普及啓発が今後の課題である。高次脳機能障害者は増加しており、精神科の治療対象となる場合や精神障害者の範疇で福祉サービスを利用することから、医療福祉関係者に事業周知を図り、支援の必要性に対する共通認識の涵養が重要と考えている。

## 8 特定不能の認知障害における脳形態変化と臨床特性

新藤 雅延\*・北村 秀明\*・横山 裕一\*  
染矢 俊幸\*、\*\*  
新潟大学医歯学総合病院精神科\*  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
精神医学分野\*\*

【はじめに】特定不能の認知障害(Cognitive Disorder Not Otherwise Specified; COG-NOS)の認知機能は認知症と健常の境界にあり、その認知障害は進行する場合も回復する場合もある。様々な病態が含まれており、脳の形態変化も多様と考えられるが、実態は明らかでない。そこで我々はCOG-NOS患者の脳萎縮と脳血管病変について調査した。そして臨床特徴と併せて解析し、画像による定量評価はCOG-NOSの有用な客観的指標となるか検討した。